

4 歳児クラス <5月 富嶽三十六景「凱風快晴」(赤富士)>



やさしいK-ART

テーマ《赤富士ワーク》

日本でも知られた浮世絵師、葛飾北斎の「富嶽三十六景 凱風快晴」通称「赤富士」を描きます。

<テーマを決める>

最近、外国からの観光客がとっても増えています。その外国人観光客の人たちに、日本で最も人気があるのが「富士山」です。富士山は、日本でも昔から人気の山です。この赤富士は、葛飾北斎によって約200年も前に描かれた作品です。

<問いを考える>

「葛飾北斎ってどんな絵を描いた人でしょうか？」
「富士山は何色をしている？」
「この雲は何雲でしょうか？」「季節はいつ頃だろう？」
「富士山の上の白い部分は何かな？」
「なぜ赤富士が赤いの？」「この絵の富士山の時間は何時くらいかな？」
「浮世絵ってなに？」

葛飾北斎が赤富士を描いた背景などお話をし、作品の奥にある状況や思いなどを感じながら富士山を描きましょう。

1. フレーム
2. プリント台紙
3. 赤富士パーツ
4. 糊
5. キットパス

(赤、しろ、オリーブまたは緑、黒、ベージュ使っても OK)



<環境をデザインする>

「絵の要素をパーツ分けした材料に色付けをしていく」

三原色で学んだお米で作られたキットパスを使って、葛飾北斎が描いた「赤富士」の模写をしていきます。絵はフォルムが上手く描けないと途端に他の子たちと比べて上手・下手という比較をしてしまいます。

きちんとそのフォルムが出せるようにパーツ化をしているので、子どもたちの想像を超える作品になるような材料作りをしています。

4歳児クラス < 5月富嶽三十六景「凱風快晴」(赤富士) > 実施報告



5/19 年中：12名 《葛飾北斎：赤富士》

はじめに今回の赤富士の作者、葛飾北斎の名前を口に出して言ってみました！

赤富士の見本を見て「わあ～！すご～い！」という歓声と共に「これ本当にやるの！？」と驚き。

描かれている山が富士山だと理解している様子でしたが「なんで赤いの？富士山って水色じゃないの？」と気がきか。実際に富士山が赤く見られる時があること、富士の麓にある森の木々を黒い点で表現できる、というお話もしっかり聞いてくれました。

先月行った「側面塗り」で、緑(オリーブ色)、ベージュ、赤を使って表現。

赤色はてっぺんまでは塗らないこともしっかり守って塗れました。白のキットパスで、雪を描くことにもチャレンジ！難しいよ～という子は先生と一緒に描いてみたり、みんなそれぞれの雪が描けました。

富士山のパーツを背景に貼り、自分の作品を額に入れると「わあ！」と目を輝かせ「早くお家の人に見せたいなあ」と満足そうな様子でした。